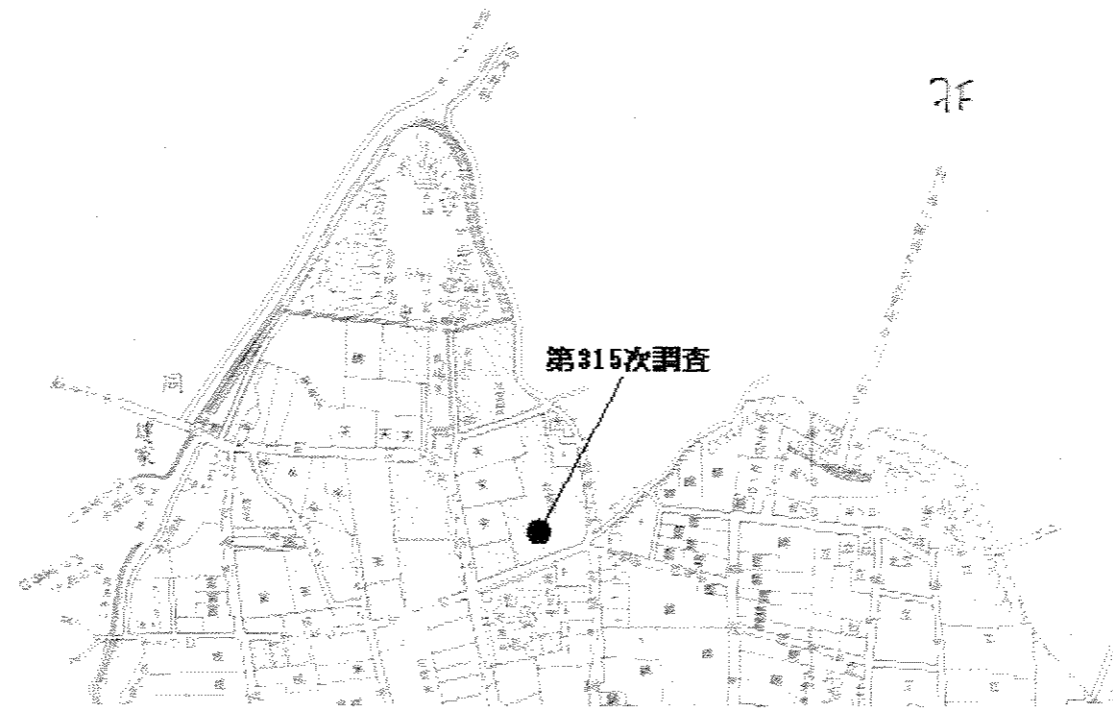


有岡城跡・伊丹郷町遺跡第315次調査 現地説明会資料



「天保15年伊丹郷町分間絵図」解説図 『伊丹古絵図集成』より部分掲載（一部加筆・修正）

平成22年8月28日



伊丹市教育委員会



有岡城跡・伊丹郷町遺跡第 315 次調査

現地説明会資料

現在、調査中の有岡城跡・伊丹郷町遺跡第 315 次調査地点において、江戸時代の酒蔵跡や、戦国時代の堀跡が発見されました。調査はまだ継続中ですが、その中間成果を報告いたします。

1. 遺跡名 有岡城跡・伊丹郷町遺跡
2. 調査回数 第 315 次調査
3. 調査原因 公共施設建設に伴う本発掘調査
4. 調査地 伊丹市宮ノ前 3 丁目 60 番地
5. 調査期間 平成 22 年 5 月 17 日～12 月末（現在調査継続中）
6. 調査面積 2400 m²（現在調査地約 1000 m²）
7. 調査主体 伊丹市教育委員会



第 315 次調査 堀 01

I 遺跡の概要

本遺跡では（第 1 図）、古くは縄文～古墳時代の遺構・遺物が検出されますが、主たる時代は鎌倉～江戸時代です。また、この間は伊丹氏及び荒木村重が居城していた鎌倉～安土桃山時代の「伊丹城・有岡城期」、有岡城廃城後、酒造業で栄えた江戸時代の「伊丹郷町期」に大別されます。

この 2 時期の概要について説明します。

*伊丹城・有岡城期

伊丹城は、在地武士の伊丹氏の居城として鎌倉時代末期には存在したと考えられています。永禄 11 年（1568）に織田信長が入京すると、伊丹氏は信長方につき、「摂津三守護」の一人になりますが、荒木村重によって、天正 2 年（1574）に落城します。

荒木村重は、伊丹城を「有岡城」と改め、侍町と町屋の全体を堀と土塁で取り囲んだ「惣構え」の城に大改造したと考えられています。中世の城では、城と家臣団の居住地や町は離れた所がありました。それが次第に近接するようになり、室町時代末期には城と町を堀や土塁などの防御施設によって囲む「惣構え」の城が造られ始めます。有岡城は「惣構え」の城としては早い段階で成立した城で、歴史的に重要視されています。

有岡城の構造は、『信長公記』の記述や江戸時代の絵図などから、主郭は現在の JR 伊丹駅付近とされ、その西側に侍町、さらに、その西側一帯に町民の住む町が広がっていたことがわかっています。

主郭部の発掘調査では、主郭部の周囲に内堀と土塁が設けられていることがわかり、内堀の規模は幅約 15m、深さ約 2.5m 以上で、石垣はなく、素掘りの堀であることも確認されました。

さらに、主郭部西側にあった侍町の発掘調査では、堀跡を数カ所検出し、幾重にも堀を巡らしていたことがわかりました。また、江戸時代に描かれた『文禄伊丹之図』(第2図)では、伊丹郷町の中央部を南北に流れる“大溝筋”が描かれ、それに平行するように土塁が表現されていることから、侍町と城下町を区画する防御施設が設けられていたと考えられていました。平成11年の県道伊丹停車場線の発掘調査や平成15年の第276次調査(現ニトリ)で、“大溝筋”の直下から巨大な堀を検出し、その実態が明らかになりました。

大溝筋は、当初は幅約6m、深さ2.7mの堀で、断面形状は逆台形を呈する箱堀であることもわかりました。さらに、平成18年おこなった第305・310次調査では、大溝筋がさらに南側に延びていることがわかりました(第1図)。

一方、本調査区は有岡城跡の西北側に位置し、近接する「猪名野神社」は『信長公記』に記された「岸の砦」ではないかと考えられています。猪名野神社の北西部には土塁が残っており、第25・39・48・63次調査の発掘調査によって堀を二重に構え、堀底には乱杭を設けて防御していたことがわかりました。さらに、猪名野神社の南西側に位置する第181次調査において、東西に延びる堀跡を検出したことから、有岡城の北側においても強固な防御施設を設けていたことがわかってきています。

*伊丹郷町期

有岡城は天正7年(1579)に信長に攻められ、落城します。その後、天正11年(1583)に廃城となり、残された城下町は江戸時代以降、酒造業を中心とした在郷町として発展します。

伊丹郷町を構成する15カ村のうち伊丹村は、当初は材木町・鍋屋町など15の町で形成されていました。町場は次第に拡張され、江戸時代中期には27町に増えます。

発掘調査では、町屋の様子を伺える遺構・遺物が多く検出します。その中で、伊丹郷町の主産業であった酒造業に関する遺構も多く検出します。

江戸時代前期は現在の県道池田尼崎線周辺に点在し、酒蔵は4×5間以上の礎石建物、釜場や搾り場などの酒造遺構も単基式のものが検出されます。江戸時代中期には県道池田尼崎線の西側・南側にも町屋地域が広がり、酒蔵は礎石建物で6×6間以上と大型化し、それに伴い礎石下には数段の根石を設けるようになります。釜場や搾り場も単式に加えて2基1組のものが出現し、酒造業の発展が遺構からも伺えます。江戸時代後期はさらなる発展がみられます。有岡城廃城後、畑地となっていた県道池田尼崎線周辺より東側地域にも酒蔵が建てられ、伊丹郷町内に広く点在するようになります。酒蔵の建物はさらに大型化し、6×10間以上となり、搾り場なども4基一組のものなどが出現し、酒造業がさらなる発展期を迎えたことが伺えます。

文献資料から伊丹郷町の酒造業は、元禄年間から享保年間(17世紀後期～18世紀初頭)、文化・文政年間(19世紀前期)に盛期を迎えたことがわかっており、発掘調査成果と一致します。

II 調査成果

第315次調査地点は(第1図)、遺跡の北西部に位置し、有岡城期では城下町に属します。また、江戸時代は伊丹村のうち「北少路村」にあたります。

発掘調査は、現在継続中ですが、いくつかの成果がみられ、主なものについて説明します。

*伊丹城・有岡城期(第2次面)→別紙第5図を参照

「岸の砦」付近から堀を発見しました。

有岡城期の主な遺構としては堀跡を1基検出しています。

SF01（堀跡）は（第5・7図）、調査区南壁沿いを東西方向に延びています。規模は、長さ約30m以上、幅約3.7m、深さ約3mで、東西共に調査区外に延びています。断面はV字状を呈する「薬研堀」とよばれる堀です。底には滞水した痕跡はなく、空堀だったと思われます。また、出土遺物はなく、土層断面の観察から一気に埋め戻したと思われます。このSF01の西続きと思われる堀跡が第181次調査で検出しています。

これまでの発掘調査で有岡城に関係する堀跡が多く検出しています。その多くは断面が逆台形を呈する「箱堀」と呼ばれる堀が中心です。また、廃城後も埋め戻さず放置する例が多く、埋土から江戸時代の陶磁器が出土します。

このことからSF01は多く検出する有岡城の堀跡とは形状がことなることや埋土の堆積状況から、有岡城より古い伊丹城に関係する堀跡の可能性もあります。しかし、現在ところ出土遺物はなく、調査が進むに連れて明らかになると思われます。

今回検出したSF01は、絵図などの資料には記載されていない堀跡であり、伊丹城・有岡城の北西部における防御施設を考える上で新たな発見となりました。

*伊丹郷町期（第1次面）→別紙第6図を参照

江戸時代（伊丹郷町期）に建てられた酒蔵と、その内部から酒造遺構「釜場」を発見しました。

本調査地は、明治19年（1886）の「酒造場絵図面届書写」（伊丹酒造組合文書）から（第4図）、池上茂兵衛蔵の酒蔵が建っていたことがわかっています。

本酒蔵は伊丹の名酒の一つである「剣菱」の酒蔵と言われています。本酒蔵での生産は文献資料によると、明治34年（1901）から昭和元年（1926）に廃業となるまで醸造しました。

伊丹郷町期の主な遺構として酒造関係遺構を検出しています。

第1次面では、南壁より北へ約6m付近で酒造関係遺構と、数段の根石を伴う礎石を数基検出しました。礎石は、その特徴から大型建物に対応するためと考え、さらに、礎石が検出した付近で酒蔵関係遺構を検出したことから、この礎石建物は酒蔵であることがわかりました。

検出された酒造遺構は釜と井戸です。釜は半地下式で、燃焼室が2基一組の連基形です。構築材として煉瓦を使用していました。また、焚き口の壁は石積みで自然石を使用し、一部補修材として煉瓦が使われていました。埋土からは近代の陶磁器やガラス瓶類が出土し、20世紀初頭には廃絶したと考えられます。

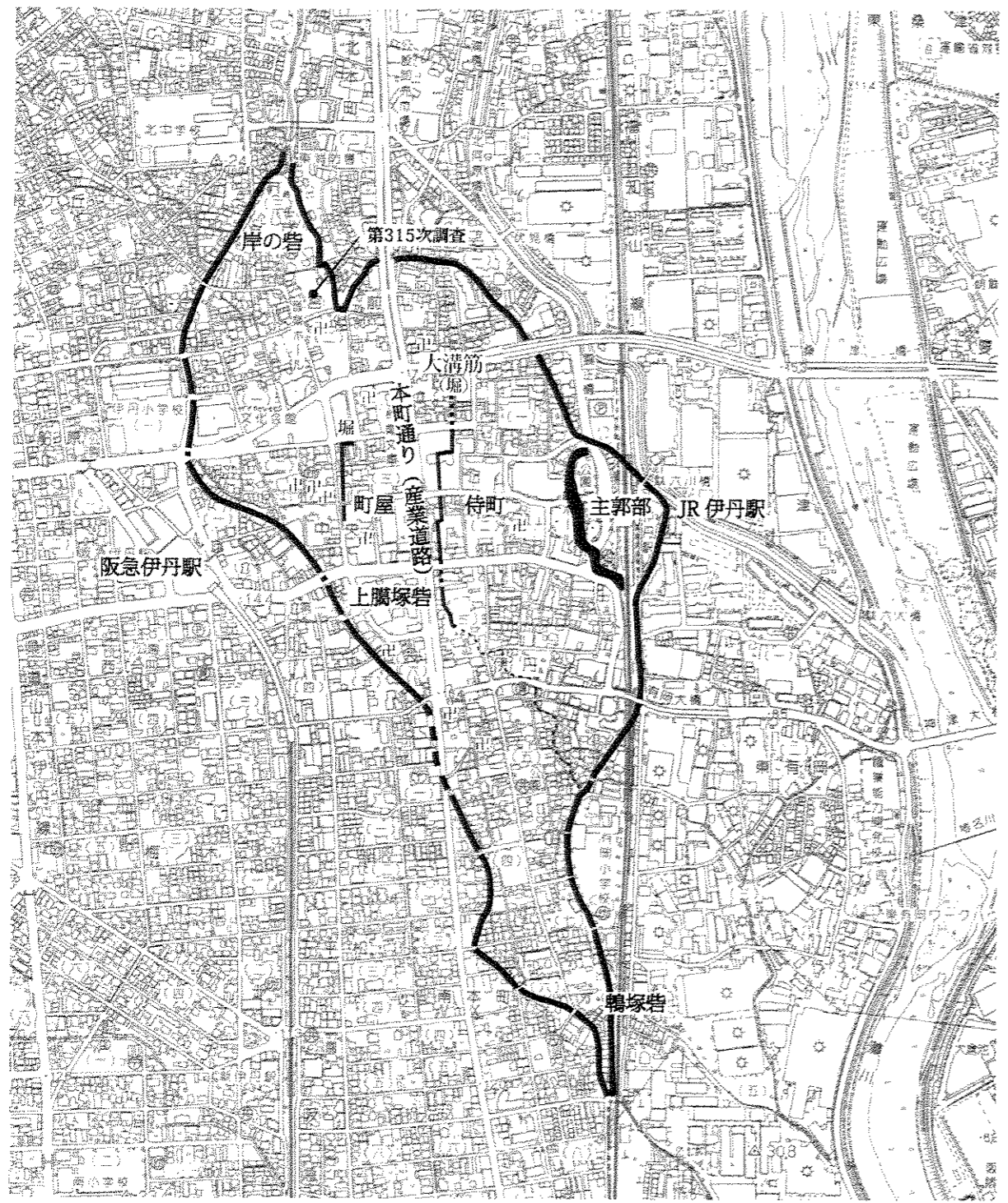
釜の南側からは井戸を検出しました。直径2mの素掘りで、井戸の周辺からは長辺0.6m、短辺0.3mの長方形の敷き石が並べられており、この井戸周辺は「洗い場」であったことが想定でき、「酒造場絵図面届書写」にも当位置が「洗い場」となっており、絵図面と発掘調査結果とが一致しました。さらに絵図面では「洗い場」の北側は「釜場」と記しており、これについても同様の成果が得られました。

これら釜場や井戸の年代観については下面の遺構の年代観から19世紀前期には酒蔵が建ち、20世紀初頭には廃絶することから、池上家が酒造業を廃業する昭和元年（1926）とほぼ一致することが明らかとなりました。

おわりに

今回の発掘調査では、酒蔵遺構を検出し、それが19世紀後期の絵図面に記されている位置通りに検出し、その廃絶年代も一致しました。さらに、今回の調査成果によりこの酒蔵が江戸時代後期には存在したことが明らかとなりました。

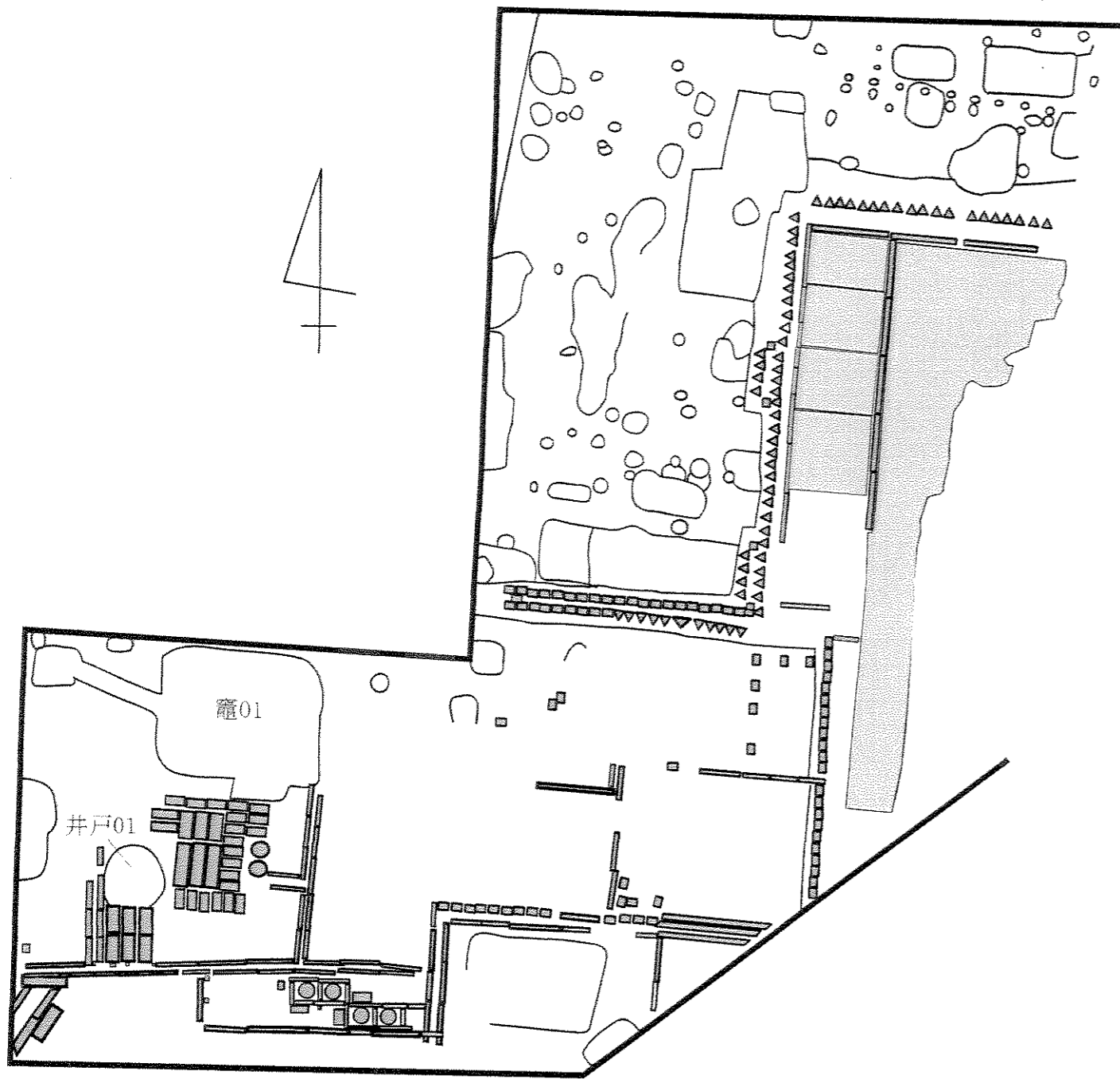
堀跡については、西北部地域では新たな発見であり、伊丹城・有岡城期の防御施設を知る上で好資料を提供したと思われます。



第1図 調査地点位置図(1/10,000)



第2図 「文禄伊丹之図」解説図『伊丹古絵図集成』より (一部加筆・修正)



第5図 第315次調査 第1次面 (S=1/200)



第6図 第315次調査 第2次面 (S=1/200)

